



わたしのひた。

大分県日田市 第6次日田市総合計画ダイジェスト版

まちは誰のもの？

まちはわたしのもの、そしてみんなのもの。

人々がいて、お店があつて、学校があつて、

役場があつて、山があつて、川がある。

誰もが幸せになるために生きている。

暮らしやすく、

夢がたくさん生まれるひたへ。

そこに住むことを誇れるひたをめざして、

すべてをじぶんのこととして。

すべてはじぶんのこととして。



誰かがやってくれるなんて思わない。

ときどき、まちづくりのことがひとごとに見えることがある。

役場がやってくれるから。

あの人がやってくれるから。

忙しいのはウソじゃない。時間がないのも本当のこと。

でも、役場の一所懸命と、みんなの一所懸命に、

わたしの一所懸命を加えたら。

ひたは、もっとよくなる。もっとステキになる。



健康でいるといいことがいっぱい。

つつがなく過ごせれば一番いい。

いつまでも元気なことがなにより。

もっともっとすこやかなまちにしていきたい。

ひととひとが助け合って、地域どうして助け合って、

まち全体で助け合う。

子供たちのはつらつとした笑顔があふれているならば、

みんなが安心して暮らせるひたになれるはず。



がんばるひとが報われないとね。

地域の元気は、たくさんの活気ある仕事があつてこそ。

それはじつとしていては生まれないもの。

活気をつくるのは、がんばるひとたちの熱いエネルギー。

あたまやからだに汗をかくひとたちのがんばりに

応えられるまちでなければ。

ひたの林業、ひたの農業・水産業、ひたの商工業、ひたの観光。

がんばるひとがかがやくひたをめざしましょう。



快適な暮らしを当たり前前にしよう。

世界のじょうほうが入り、世界へはっしんできる時代。

くるまやバスやれっしやで、

いつでも好きな場所へ行ける時代。

でも、自然の災害は、いまもいつやってくるかわからない。

便利さはちゃんと守りながら、

災害への備えはきちんとしておこう。

その両方がそろってはじめて、快適な暮らしはほんとなる。



淡窓先生もそうおっしゃっている。

こどもを大きくするのは、夢。

こどもを立派にするのは、誇り。

ふるさとを愛し、未来をきりひらくこころを持つこどもたちを育てること。

そのために、学びたいひとには、わけへだてなく、

その個性を伸ばし、いくつになっても、

学びたいことを学べるように。

学ぶ楽しさを少しでも増やしていこう。



山々から湧き出す水とともに生きる。

何本もの大河と、隅々までめぐるとくさんの水路。

水郷ひたには、いつも水が流れている。

水は山から湧き出してくる。

山々をおおう広く深い森が雨をうけ、

それは谷に集められ、まちへ下っていく。

川と水は、わたしたちの命のみなもと。

水に恵まれたこのひたを、みんなで守り伝えていかなければ。



27,340世帯
世帯数 / 平成29年4月30日現在

666.03km²
日田市の面積 / 平成27年3月6日～

5.0人
転入(1日平均) / 平成28年

237.0mm
九州北部豪雨における1日最大雨量 / 平成24年7月14日

1.4人
出生(1日平均) / 平成28年

67,183人
人口 / 平成29年4月30日現在

93.2%
水道普及率 / 平成28年4月1日現在

約**373**億円
市の歳出額(一般会計) / 平成27年度

2.6人
死亡(1日平均) / 平成28年

34施設
こども園・保育園数 / 平成29年4月1日現在

9駅
JR九州の駅 / 平成29年

約**5,000**人
咸宜園に全国各地から集まった門人たち

71箇所
公園の数 / 平成29年4月1日現在

70施設
社会福祉施設数
(老人福祉施設33・障害者施設37)
/ 平成29年4月1日現在

435,814人
宿泊者数 / 平成28年

50.2m
最大瞬間風速 / 2004年(平成16年)9月7日

5.8人
転出(1日平均) / 平成28年

29団体
特定非営利活動法人(NPO法人) / 平成29年4月1日現在

0.8組
結婚(1日平均) / 平成28年

-10.8°C
最低気温 / 1945年(昭和20年)1月19日

39cm
月最深積雪 / 1963年(昭和38年)1月9日

約**83**万円
市の借金残高(1人あたり) / 平成27年度

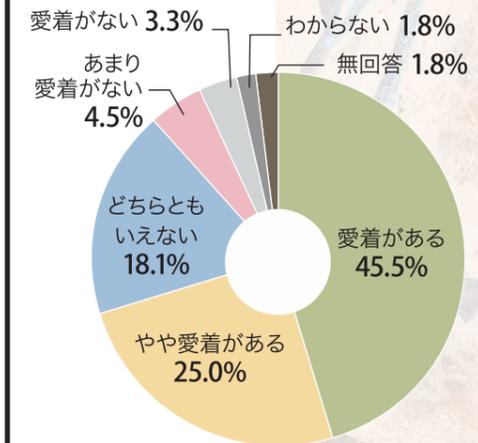
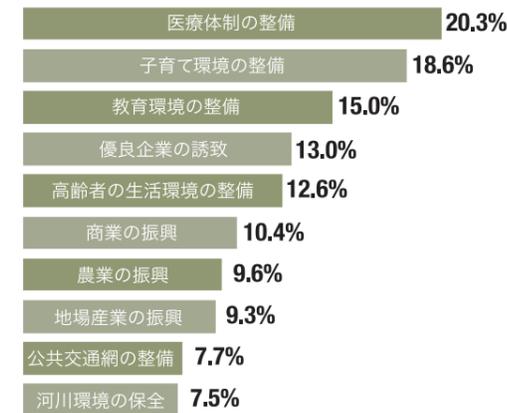
904冊
図書館図書貸出数(1日あたり) / 平成28年度

日田市がこれまで進めてきた取組の中で、特に重要と考えるものをお答えください。

日田市に愛着を持っていますか。

11.4回
救急車出動(1日平均) / 平成27年

78.5%
山林の占める割合 / 平成27年



0.3組
離婚(1日平均) / 平成28年

4,033戸
農家数 / 平成27年

約**77**億円
市税(一般会計) / 平成27年度

39.4°C
最高気温 / 2013年(平成25年)8月20日

67.7t
ゴミ処理量(1日あたり) / 平成27年度

45日
猛暑日最多日数 / 1994年(平成6年)

ひたつて、そうなんだね。
日田市を囲む美しい山々、その谷筋から流れ出る清らかな水。古くから、天領として栄え、いまも、日本遺産に認定された私塾咸宜園や豆田町、そしてユネスコの無形文化遺産に登録された日田祇園といった継承文化に、雅な空気が漂います。そんな日田のいま、暮らしのいまを、さまざまな数字で表してみました。

※気象データの観測地点は日田特別地域気象観測所



こうなればいい。ぜひ、そうしよう。

社会や経済の目まぐるしい変化は、私たちの生活にも大きな影響を与えます。日田のまちづくりも、そうした状況を見据えながら取組を進めなければなりません。日田のより良い未来に向かって、このたび定めた総合計画から、いくつかの大切な将来像をご紹介します。実現に向けて、市民の皆さんの知恵と力を貸してください。

まちづくり6つの約束

このたびの総合計画では、6つの政策の柱を立てました。急激な人口減少や少子高齢化が進展する中であって、市民の皆さんの生活を支え、多様なニーズに応える、言わば行政と市民がともに進める6つの約束です。各種の施策は、分野ごとに細かくまとめながら計画的に展開し、より総合的なまちづくりを効率的に進めます。

きずなを強める人の力が活かされるひた

地方分権の進展や多様化する市民のニーズなど社会環境の変化に伴い、自己決定と自己責任の原則に基づくまちづくりや行政運営が求められています。このため、市民と市民、市民と行政による協働のまちづくりが重要となっています。市民協働のまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりが自ら作り上げる気概を持ってまちづくりに関わり、お互いを助け合いながら共に行動する仕組みをつくることが大切です。市民を主役として、地域、企業、行政、さらには、日田のまちに関わるすべての人々が連携してそれぞれの役割を果たし、行政が市民の取り組みを支えることで人の力が活かされるまちづくりを推進します。

住む安心を高めるいつまでも暮らしたいひた

誰もが人間らしく、住み慣れた地域で安心して生活できるまちが求められています。このため、すべての市民が健康で心豊かに自分らしい生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉の分野で相互の連携を深め、地域で安心して暮らせる仕組みと健康づくりのための仕組み、子育て環境の整備を進めます。また、市民一人ひとりが自分の住む地域での「自助」「共助」「公助」の認識を明確にし、共に力を合わせて支え合い、災害に強く安心して住み続けられるまちづくりを推進します。

やりがいと魅力をつくる 価値を磨き続けるひた

自然や歴史、文化財などの地域資源、そこから生み出される農林水産物などの豊富な自然素材を活かした産業の振興は、地域を活性化する原動力です。このため、産業の担い手や後継者を育成するとともに、地域の農林水産業、商工業、観光業の振興や企業誘致に向けて、市民、事業者、行政がそれぞれ知恵を出すことで日田の潜在力を最大限に引き出す仕組みを作ります。こうした取り組みを通して、地域を支える事業者や個人が意欲を持って挑戦できる、やりがいと活力に満ちたまちづくりを推進します。

安全で快適に暮らす 便利も快適もそろえるひた

市域の大部分に山林が広がる日田市は、市内を縦横に流れる河川に沿って道路や集落、市街地が形成され、そこの暮らし方も多様であることから、地域の実情に応じたまちづくりが重要となります。このため、日常生活と日田市の発展に欠かせない道路や河川、交通、情報ネットワーク等の重要なインフラを整備するとともに維持管理を継続的に行うほか、災害を未然に防ぐ対策を進めることで安全性が高く効率的なまちづくりに努めます。また、恵まれた自然環境や歴史・文化・景観などに配慮した生活環境を整え、誰もが豊かさを感ずる快適なまちづくりを推進します。

学ぶ楽しさを増やす 学ぶ機会に満ちるひた

日田市では、地域の特色ある学校教育を進めるとともに、多様な学習要求に対応した社会教育の環境整備と文化財の活用を図っており、今後もこうした特性を生かした教育を進める必要があります。このため、夢と誇りを持ち、ふるさとを愛し、未来を切り拓くことのできるたくましい子どもたちを育てる学校教育を展開します。また、歴史と伝統を知り、日田ならではの魅力に気づき、守り、未来へとつなげるため、市民が楽しみながらも学び語り合える場とスポーツ・文化に親しめる環境づくりを進めます。さらに、この地に伝わる咸宜園かんぎえんの教えである「咸く宜し」かんくよしを受け継ぎ、すべての人がお互いに尊重し合うまちづくりを推進します。

水と緑を宝にする 自然の宝を光らせるひた

恵まれた自然環境で育まれる水と緑、受け継がれてきた『水郷ひた』の歴史と文化は、私たちの大切な宝であり、生活や産業の基盤として多様な役割を果たしています。また、これらの資源が、私たちだけでなく筑後川流域や福岡都市圏の人々にも多くの恩恵をもたらしていることを知り、水と緑が生まれ育つまちの住民として、その役割を果たす必要があります。このため、森林の保全や清流を守る取り組みのほか、地域の環境を守りつなげていくために、市民・地域・企業・行政が学び、考え、実行し、環境と共生する持続可能なまちづくりを推進します。



大好きなひたに住む。

そこは、山の風景が近いまち。

そこは、水の音が聞こえるまち。

そこは、大切な人が住んでいるまち。

そこに住むことを誇りに思えるように。

知恵をそそいで、汗をながして、

わがまち、ひたをよくしていこう。

わたしのひた。

みんなのひた。

わたしは大好きなひたに

ずっと住む。